まちづくりの主役は市民一人ひとりです。

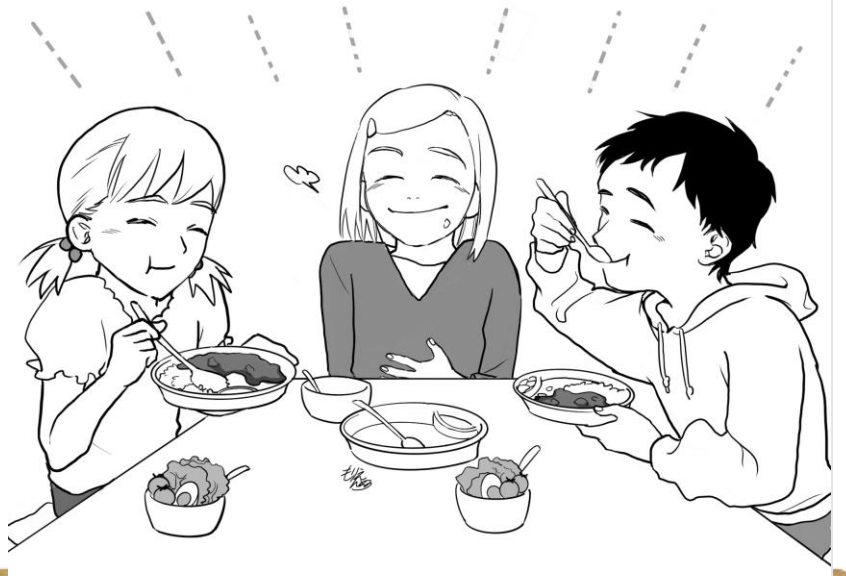
きさらづ市民ネットワーク通信

2022年初夏号　NO.94

市議会議員　田中のりこ
ブログやFacebookを日々更新中

facebook　市民ネットHP　ブログ

発行／きさらづ市民ネットワーク　発行責任者／廣澤恵子　事務所／木更津市八幡台3-4-8　TEL・Fax：0438-36-0677
事務所メールアドレス n-kisarazu@jcom.zaq.ne.jp　田中のりこメールアドレス tanaka-noriko@live.jp



テーマ／あー、おいしい　絵／木更津市在住　もりえんぬ

こども食堂は
地域の居場所
新たな地域コミュニティ

今年で丸５年の「木更津波岡こども食堂」

木更津波岡こども食堂は４月22日で112回を迎えました。以前は、主に母子が、友達と会話しながら賑やかに会食していましたが、コロナ禍により弁当の手渡しとなり、最近は仕事帰りのお母さんだけでなく、お父さんや高齢者等、参加者も多様化し、こども食堂が人や地域との繋がりの場となっています。

一方で参加者の多寡により弁当数が間に合わない時もあり課題となっています。

こども食堂は「お弁当食べたい！」「野菜提供します！」など色々な形で参加できます。コミュニティの場として皆様の参加をお待ちしています。　（藤川）

公民館の調理室でところ狭しと盛り付け中

４月８日16時、調理室では、揚げ物をする人、盛り付けをする人、手際よく活動中でした。男性スタッフが多いのがここの特色だそうです。この日、はじめて参加のスタッフもすっかり溶け込んで盛り付けしていました。

こども食堂は、調理する側にとっても、新たな居場所となっていると感じました。　（田中）

仕事が終わり、18時過ぎに寄ると運よく弁当がある時もあります。弁当に添えられたチラシになぞなぞがあり、毎回楽しみにしています。また、公民館での会食ができますように願っています。　（廣澤）

研修報告　こども食堂と私たちの地域・社会

講師　湯浅　誠さん　社会活動家・東京大学特任教授
NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長

こども食堂とは、こどもを真ん中に置いた多世代交流の居場所。こども専用食堂ではないし、食べられないこどもがいくところでもない。むしろ、こどももOK食堂。行政の行う福祉は、対象者を限定した支援事業が多いが、こども食堂は、年齢制限もなく、だれでも行ける公園のような地域みんなの憩いの場と捉えるべきと講師は話す。

貧困であってもなくてもすべてのこどもに居場所が必要である。講師は信号にたとえる。黄信号から赤信号への転落を地域的養護でいかに予防するか(こぼれにくい地域づくり)。そして、赤信号に陥った人たちに行政サービスでいかに対処できるか(水際・崖っぷちの相談支援)。

「こどもの居場所」、「高齢者の居場所」等の「地域の居場所」が注目されている。地域の居場所づくりの活性化のためには、利用者の多世代化、自治会、町内会等の関わり、居場所に関する「情報の見える化」などが課題と考えられる。お寺で行うこども食堂があったり、こども食堂の日は、地域のお祭りのように多世代が集まるところもあるという。まさしく多世代交流の居場所であることを再確認した研修だった。　(2022.1.25　研修受講　田中のりこ)

木更津波岡子ども食堂
毎月第2、第4金曜日八幡台公民館にて開催
問い合わせ　090-9102-3147(堀切)
おとな300円　こども無料

暮らしと政治をつなぐ　市民ネットワーク

調査報告　各学校まかせ　小中学校に配布の「放射線副読本」

福島第一原発事故後、文科省の原発・放射線に関する「副読本」は、2011年10月、2014年2月、2018年9月、2021年12月に改訂されました。

昨年末に文科省は、各自治体の教育委員会ではなく、各学校に直接、副読本を発送しました。

2014年と2018年の副読本を比較

- 「汚染」表記削減　「汚染水」含む課題は削除
- 原発事故の写真削除、復興の写真に差替え
- いまだ高線量の現状は説明せず
- 復興やいじめ防止がクローズアップ

福島第一原発事故を真摯に反省し，教訓から学ぶには、これまでの教育や広報において、原子力発電に関する内容が公平に扱われてきたかどうかを検証することが求められます。また、原子力の利用に関する是非の判断は，国民への公平な情報提供のもとで，社会的に意思決定されるべきであり，個人の認識の形成には教育や広報の内容が大きく影響します。

原子力・放射線に関する教育・広報の問題点と教訓と、原子力・放射線副読本における公平性の視点から、教育委員会に現状把握のための聞き取り調査を実施してもらいました。

● 2021年12月17日以前の副読本を使って授業を行った学級はあるか

はい 11校	・児童の実態として福島第一原発事故や放射線について知らないため、副読本のイラストを活用し、まずは説明を十分に行った。 ・安全性、重要性、これからについて、差別等（2校） ・よい面悪い面について公平に取り上げた。 ・正しい知識と偏見が生まれないよう心がけた。（2校） ・不安をあおるような伝え方は避ける。 ・被災関係者がいるかもしれないことを配慮しつつも、放射線について正しい知識が得られるように補助的な資料として活用した。
いいえ 19校	・授業を行うための準備時間、授業時間の確保が難しい。（5校） ・教科書の内容が終了後実施予定である。 ・配付のみ行った。（5校） ・授業を行う時間がなかったため、各家庭で読むよう、子どもたちに声かけして配付した。

●2021年12月に配布の「放射線副読本」を、どのように授業に活用するか、学校内で話し合いはあったか。　　あった8校　　なかった22校

●2021年12月に配布の「放射線副読本」はこれまでの副読本と何が変わったか、比較したか。　　比較した4校　　比較していない26校

●2021年12月に配布の「放射線副読本」を授業で使う際に心がけたいことは。

公平性をできるだけ確保しようとする姿勢　24校
判断力を育むことができるような工夫　20校
その他　・人権や思いやりについて
・地球的エネルギー改革のこれから
・福島第一原発事故が起こった背景とは何かを理解できるような工夫
・誤った情報や思い込みによって誤解を生まないようにする姿勢
・他教科との関連
・偏見をもたない，もたせないような指導

各学校まかせの対応でしたが、今回の調査を機に、教育委員会として、全体把握ができたこと、また、この調査を経て、各学校で改めてこの教材の使い方を吟味し、公平な情報提供を教育の現場でされることを期待します。

暮らしに薫る本シリーズ⑲

「非色」

有吉佐和子

この作品は昭和 39 年に書かれた。若い頃から幾度も読んでいる私がまた読み返し、一行もとばせない。いろんな人種を描いている。アメリカ人はユダヤ人やイタリア人を、ユダヤ人やイタリア人はニグロを、ニグロはプエルトリコ人を軽蔑する。あらゆる登場人物たちはこうして相互に否定し合う。

戦争花嫁でニグロの妻となった笑子は夫の国アメリカへ渡る。アメリカの中のニグロの住居ハーレムは半地下で、日本では輝いていた夫のトムはそこではすべての輝きを失っていた。でもその変化は肌の色のためではない。

金持ちは貧乏人を軽んじ、頭のいい者は悪い人間を馬鹿にし、貧乏人は成り上りを罵倒する。要領の悪い男は才子を薄っぺらだといい、美人は不器量をあわれみ、インテリは学歴のない者を軽蔑する。人間は誰でも自分より以下の者を設定し、それでなければ落ちついて生きていけないのではないか、と。

（宮下）

〇▲■おしらせ伝言板〇▲■

▶オンライン（ZOOM）講演　**復帰 50 年の沖縄**
～地域経済と日米地位協定のこれから～

5 月 7 日（土）14 時～16 時　参加費 無料
講師 前泊博盛さん（沖縄国際大学大学院教授）
主催 市民ネットワーク千葉県

申込　自宅パソコンやタブレットなどで視聴の方

QR コードから申し込めます。
または
検索 市民ネットワーク千葉県で。
資料はメールで届きます。

申込　八幡台公民館の大型モニターで視聴の方

問合せ専用TEL070-2172-8480（きさらづ市民ネット）
予約された方には、資料を用意しておきます。

【つぶやき】ロシアによるウクライナ侵攻は許しがたい。ロシアはウクライナに住んでいるロシア人を助けるという思いで戦争を始めた■まさに力による領土拡大である。領土拡大とは、そこに住んでいる人の人権を侵害することに他ならない。毎日惨状が写し出されているのをみているとなんともやり切れない■私たちは、戦争にならないための方法を考え続けなければならない。戦争を起こす芽を一つ一つ摘み取っていかなくてはならない。平和を創り出すための大切さを改めて考えたい■まずは戦争反対を訴えることから始めたい。（廣澤）